

A重油と廃食用油混焼に転換

日本道路 アス混合物の燃料

日本道路は2024年1月10日から、長崎合材センター（長崎県大村市、日本道路・平山組・友建設JV）で、アスファルト混合物の製造過程で使う燃料を、A重油の専焼からA重油と廃食用油(UCO)の混焼に転換する。A重油と廃食用油を6対4の割合で混焼することで、約38%のCO₂排出量を削減できる。23年から25年にかけて全国20の工場に導入し、同社グループの年間

のCO₂排出量の約11%に相当する、1万1000トンのCO₂排出量の削減を目指す。長崎県内の廃食用油を燃料として製造したアスファルト混合物は、長崎県をはじめとして大村市などの道路に使う。CO₂のほか、SOx（硫黄酸化物）、NOx（窒素酸化物）の排出量の削減、地域資源の地産地消、地域エネルギーシステムの構築など、地域循環共生圏の構築に役立つとする。廃食用油の供給は、全国油脂事業協同組合連合会の協力を得る。

同社は、CO₂排出量割合が大きい製造販売事業について、廃食用油の利用だけでなく、グリーンアンモニアやバイオ燃料との混焼など、幅広く検討を進める。

